

発 言 通 告 表 （ 施政方針に対する質問 ）

平成30年2月定例会

順位	氏名（議席）	発 言 の 要 旨	答 弁 者
1	稲葉 寿利（29）	<p>1. 「はじめに」について</p> <p>市長は、「生涯青春都市 富士市」の実現を目指し、1期4年で「まいた種が着実に成長し、実を付け、収穫できたものもあると考えております。一方、選挙戦を通して私が肌で感じたことは、市民の皆様の評価が『1期目の市政運営は堅実であったものの、もの足りなさを感じる』というものであり、市民満足度を更に向上させるためには、プラスアルファの行政サービスが求められている」と述べている。プラスアルファの行政サービスとはどのようなことを指しているのか。</p> <p>2. 「市政運営の基本姿勢」について</p> <p>(1) 「教育委員会と連携し、いじめのない学校づくりやそれぞれの学区の実情に応じた小中連携・一貫教育を目指すとともに、大学や専門学校などの高等教育機関の誘致を図るなど、教育環境の充実を図ります」と述べている。どのような大学や専門学校の誘致を目指しているのか。</p> <p>(2) 「築30年以上が経過し、老朽化が進む本市の高次・救急医療を担う基幹病院である中央病院の建て替えに向けて取り組んでまいります」と述べている。どのようなスケジュール・構想で取り組むのか。</p> <p>3. 「施策の概要」について</p> <p>(1) 『安全で暮らしやすいまち』をつくるための施策について</p> <p>防災対策については『富士市災害時受援計画』を策定、「災害時の支援情報を一元管理する『被災者生活再建支援システム』を新たに整備」、また、「若い世代の消防団への加入を促進するため、18歳以上の学生等を対象に災害対応を除く特定の消防団活動のみ従事する機能別消防団員制度を新たに導入してまいります」と述べている。「富士市災害時受援計画」、「被災者生活再建支援システム」、機能別消防団員制度の内容と策定の背景について伺いたい。</p> <p>(2) 『健やかに安心して暮らせるまち』をつくるための施策について</p> <p>『誰も自殺に追い込まれることのない社会』の実現を目指すため、本市の実情に合わせた『自殺対策計画』を策定いたします」と述べている。本市の実情と具体的な「自殺対策計画」の内容について伺いたい。</p> <p>(3) 『産業が交流するにぎわいのまち』をつくるための施策について</p> <p>工業振興については、「CNFの産業化に向け、目指すべき方向性や具体的方策等を明確にする『（仮称）富士市CNF関連産業推進構想』を策定いたします」また、「市内企業のCNFの用途開発を促進するため、研究開発用のCNF</p>	市長

順位	氏名（議席）	発言の要旨	答弁者
1	稲葉 寿利（29）	<p>製造設備の導入支援制度の創設や県との連携による実習の場の提供など、支援を強化するとともに、引き続き市内企業への情報提供やC N F 製造企業等とのマッチングの場の提供を積極的に行ってまいります」と述べている。「(仮称)富士市C N F 関連産業推進構想」の内容と策定完結時期及びC N F 関連の市内企業は、どのような業種、どの程度の規模の企業を考えているのか。</p> <p>(4) 『人と自然が共生し環境負荷の少ないまち』をつくるための施策について 環境保全については、「豊かな自然環境を将来にわたり引き継ぐため、希少種保護や外来種対策などを盛り込んだ『(仮称)富士市生物多様性地域戦略』の策定に着手いたします」と述べているが、具体的にはどのような取り組みを考えているのか。</p> <p>(5) 『魅力ある教育を実現するまち』をつくるための施策について スポーツ振興については、「オリンピック・パラリンピック開催に伴う事前合宿の誘致に向けて、早期に相手国を確定できるよう取り組むとともに、大会後も様々な面で相手国との有益な交流を継続できるよう、市民参画による検討組織を立ち上げ、交流プログラムを具体化する」と述べているが、事前合宿の相手国の見通しはどのような状況にあるのか。</p> <p>(6) 『人にやさしい便利で快適なまち』をつくるための施策について ① 田子浦地区内において、「良好かつ持続的な住環境の形成を目的として、本市初となる都市計画提案制度に基づき、『あしたの杜地区計画』の都市計画決定を行ってまいります」と述べているが、具体的な本計画の内容について伺いたい。 ② 空き家対策については、「空き家バンクを創設するとともに、予防啓発パンフレットや適正管理を図るためのガイドブックを作成するほか、除却やリフォームに係る補助制度の創設に向け調査研究を行ってまいります」と述べている。調査研究の内容とスケジュールについて伺いたい。</p> <p>(7) 『市民と創る新たなまち』を築くための施策について 中核市移行の検討については、「県との協議を重ね、広報ふじやウェブサイトなどへの掲載、講演会の開催により、検討状況を積極的に情報発信するとともに、市民説明会などを開催し、市民の皆様と議論を深めてまいります」と述べている。中核市移行に当たっての重要な判断指標と中核市移行による市民サービス向上について伺いたい。</p> <p>(8) 平成30年度の執行体制について 市長公室においては、「地方創生に繋がる民間のノウハウ</p>	市長

順位	氏名（議席）	発 言 の 要 旨	答 弁 者
1	稲葉 寿利（２９）	を習得するとともに、連携強化を図るため、新たに職員を民間企業へ研修派遣いたします」と述べている。研修先、研修員数、研修期間などについて伺いたい。	市長

順位	氏名（議席）	発言の要旨	答弁者
2	太田 康彦（22）	<p>1. 市政運営の基本姿勢第4及び施策の大要第7『市民と創る新たなまち』を築くための施策について 中核市への移行について</p> <p>(1) 富士市が中核市として目指す形は、「自立した行政経営」にあるのか、「富士山を取り巻く圏域における地域経済の発展」に重点を置くのか、第一の目的はどこにあるのかを伺います。</p> <p>(2) 「オール富士市で議論を本格的に進める」とありますが、市民の理解を得るために、どのような機会とスケジュールにより、議論の場を設けていくのでしょうか。</p> <p>(3) 「県との協議を重ね」とありますが、まず、静岡県との間で着手すべきことは何かについて伺います。</p> <p>(4) 平成30年度には「第六次富士市総合計画」の策定に着手することになりますが、中核市移行についても並行して進められるべきであり、中核市への移行の目標年度を「六次総」のスタート時点に置くべきと考えますがいかがでしょうか。</p> <p>(5) 中核市として、周辺市町との連携、連携中枢都市圏の形成、さらに拠点として担うべき役割が挙げられますが、連携中枢都市圏については、どのような姿勢で臨みますか。</p> <p>2. 施策の大要第3『産業が交流するにぎわいのまち』をつくるための施策について</p> <p>(1) CNFの産業化について</p> <p>① 「(仮称)富士市CNF関連産業推進構想」は委員10名により構想策定を行うようですが、委員の構成、策定期間、構想の施策への反映について伺います。</p> <p>② CNFの用途開発の促進施策について、支援強化策を具体的にお示しください。</p> <p>③ 経済産業省への職員派遣の成果をどのように捉え、また富士市のCNF関連施策へいかに反映されてきているのかについて伺います。</p> <p>④ ここまで、静岡県との連携、協力のもとに進められてきました。新年度、静岡県との連携はどのように展開していくのでしょうか。</p> <p>(2) 商業振興について</p> <p>① 「富士市まちなか活用事業」を実施し、商店街の魅力の醸成、価値の創造を図るとしてありますが、事業の内容について伺います。</p> <p>② 不動産オーナーを対象としたリノベーション手法については、平成29年度に勉強会等が開催されています。空きビル・空き店舗等の遊休不動産の活用については、マッチング交流会を開催するとしています。開催の計画、参加者のニーズ等について伺います。</p> <p>3. 施策の大要第6『人にやさしい便利で快適なまち』をつくるための施策について及び平成30年度当初予算について</p>	市長

順位	氏名（議席）	発 言 の 要 旨	答 弁 者
2	太田 康彦（22）	<p>(1) 空き家対策について</p> <p>① 空き家バンクを創設すると述べられていますが、これまで自治体の取り組みがバラバラであったことから、全国版空き家・空き地バンクの創設に向け、国土交通省はモデル事業の試行運用を開始しています。それらとの整合性については、どのように図っていきますか。</p> <p>② 空き家の除却、リフォームについての補助制度を研究するとしていますが、補助制度の必要性について伺います。</p> <p>(2) 平成30年度当初予算について</p> <p>一般会計831億円、特別会計、企業会計を合わせて総計1660億6871万7000円と、前年度比1.4%減の当初予算が示されています。「依然厳しい財政状況下での予算編成」と述べられています。</p> <p>一般会計の歳出、土木費を見ますと、前年比81.8%、21億7300万円の減となっており、小長井市長就任後では、初めて100億円の大台を大きく割り込み97億7648万5000円の規模となっています。</p> <p>土木費の大幅な予算削減について考えを伺います。</p>	市長

順位	氏名（議席）	発言の要旨	答弁者
3	小池 智明（18）	<p>1. 「はじめに」について</p> <p>「市民の皆様の評価」と「議会との連携」について</p> <p>「選挙戦を通して私が肌で感じたことは、市民の皆様の評価が『1期目の市政運営は堅実であったものの、もの足りなさを感じる』というものであり、市民満足度を更に向上させるためには、プラスアルファの行政サービスが求められている」としているが、</p> <p>(1) 改めて25万都市富士市の市長として、持続可能な都市として飛躍していくための地方自治に関する哲学・理念を伺う。</p> <p>(2) 市民が感じた「堅実さ」と「もの足りなさ」とは、その哲学・理念に基づく1期目の考え方、取り組み面のどのような部分と考えているか。</p> <p>「議会との連携の下、市民の皆様が求めるプラスアルファの行政サービスを提供できるよう、新たな種をまき、育てていく」としている。一方4年前、つまり1期目最初の年の施政方針においても、「はじめに」で、『生涯青春都市 富士市』の実現を目指し、『まちに元気を、人に安心を』を信条に、議会との連携の下、重責を果たして参りたいと考えております」と「議会との連携」を打ち出していたが、</p> <p>(3) 1期目4年間の「議会との連携」をどのように評価するか。</p> <p>(4) 1期目の評価を踏まえ、2期目での「議会との連携」をどのように進めていく考えか。</p> <p>2. 施策の概要第1『安全で暮らしやすいまち』をつくるための施策について</p> <p>「防災対策」について</p> <p>「大規模災害発生後、り災状況等を盛り込んだ被災者台帳を作成し、被災者のニーズに応じた多種多様な支援を適切かつ効率的に行うため、支援情報を一元管理する『被災者生活再建支援システム』を新たに整備いたします」としているが、</p> <p>(1) 平成26年度から災害情報共有システムの構築に取りかかり、その後、災害情報リアルタイム共有システム（平成28年度）、被害認定調査・り災証明書発行システム（平成29年度）を追加し、さらに新年度「被災者生活再建支援システム」を追加する形だが、一連の災害情報共有システム全体の完成イメージ・機能とその完成時期はどう考えているのか。</p> <p>(2) こうしたシステムは、自主防災会が取り組む防災訓練や避難所開設運営訓練で、市民とともに試行訓練を行うべきと考えるがいかがか。</p> <p>3. 施策の概要第3『産業が交流するにぎわいのまち』をつくるための施策について</p> <p>「企業誘致」について</p> <p>「より効果的な誘致施策を推進するため、県東京事務所に</p>	市長

順位	氏名（議席）	発言の要旨	答弁者
3	小池 智明（18）	<p>職員を派遣するとともに、製造関連以外の産業の誘致を目的に、県内主要都市におけるオフィス動向や企業ニーズの調査を実施いたします」としているが、</p> <p>(1) 平成28年度から開始している「富士市本社機能移転・拡充促進事業補助金制度」も目的が一部同様と考えるが、この制度の成果と課題はいかがか。</p> <p>(2) ここで言う製造関連以外の産業とは、どのような産業をイメージし、どのような調査を行うのか。</p> <p>4. 施策の大要第5『魅力ある教育を実現するまち』をつくるための施策について</p> <p>「小中連携・一貫教育」について</p> <p>教育施設の整備については、「施設の長寿命化に向け（中略）富士川第二中学校校舎等を改修いたします。また、老朽化が著しい富士川第二小学校におきましては、小中連携・一貫教育の推進を踏まえ、校舎改築に向け基本設計を実施いたします」としているが、</p> <p>(1) 富士川第二小学校・中学校の小中連携・一貫教育に向けたソフト面、ハード面（施設分離型or施設一体型）の概要とスケジュールはどう考えているか。</p> <p>(2) 市内で最も早く取り組むケースになると考えるが、地域住民及び広く市民への説明はどのように行っていく考えか。</p> <p>5. 施策の大要第7『市民と創る新たなまち』を築くための施策について</p> <p>「地区まちづくり活動」について</p> <p>コミュニティ活動については、「住民主体の地区まちづくり活動のあり方等について、幅広く意見を求めるための懇話会を開催する」としているが、</p> <p>(1) この懇話会の目的と構成はどう考えているか。また平成26年3月から平成28年9月までの長期間をかけて議論した富士市まちづくり活動推進条例検討会議との関連、違いはどう考えているか。</p> <p>(2) まちづくり協議会を「地区における住民自治を総合的に担う組織」と位置づけ、それに向けて取り組む考えはいかがか。</p>	市長

順位	氏名（議席）	発言の要旨	答弁者
4	藤田 哲哉（8）	<p>1. 「はじめに」について</p> <p>「はじめに」から市長の基本理念である「生涯青春都市 富士市」についてお尋ねします。</p> <p>平成24年12月26日に第2次安倍内閣が発足し、政府は経済財政政策を重点的に行ってまいりました。私たち富士市も同年度に「富士市都市活力再生ビジョン（以下、「再生ビジョン」という。）」を策定し、産業の活性化に向けた取り組みが実施されました。その後、小長井市長により再生ビジョンの理念が継承され、現在では新たな都市活力再生戦略として展開をしております。政府の経済戦略は、その実感は約5年後から始まると予想されており、着実に経済成長が進む中、富士市にも明るい兆しが見え始めたことは、小長井市長が堅実に前市長の経済戦略を引き継がれた結果であることから大変評価できる点です。</p> <p>しかし一方で、市長の指摘どおり、「もの足りなさを感じる」という部分では、市民の皆さんが市長の基本理念である「生涯青春都市 富士市」というものを実感できていないところにあると思われまます。</p> <p>このことは、市長の基本理念が各職員に浸透し、全職員が「生涯青春都市 富士市」を実現しようという姿勢が各実施計画に反映されていない状況にあるのではないかと考えられます。</p> <p>そこで、市長の基本理念が、この4年間に行政計画に位置づけられない原因と、今後どのようにして富士市の全ての施策に反映をさせていくのかについて伺います。</p> <p>2. 「市政運営の基本姿勢」について</p> <p>(1) 「市政運営の基本姿勢」の第1から「新たな工業団地の整備を推進する」について伺います。</p> <p>都市活力再生戦略の施策31「工業立地環境の整備」では、指標として平成26年の6件を基準とし平成32年度までに15件の企業誘致が目標値となっておりますが、来年度中にも、その目標値の達成が期待されております。</p> <p>現在でもふえ続ける工業立地の要望に対して、新たな工業団地の整備の推進は大変理解できる場所ですが、立地要望への対応の体制、また、具体的な実現の見通しはいかがか伺います。</p> <p>(2) 続いて、第3から「まちづくりに参画する人、まちの魅力を伝える人、まちに感謝する人を増やすための活動戦略として、ブランドメッセージ大作戦を開始いたしました」について伺います。</p> <p>「まちづくりに参画する人やまちの魅力を伝える人を増やす」という観点は、能動的な行動を促すことを意味するものと受けとめましたが、「まちに感謝する人を増やす」の感謝というのは恩恵の受領や、負担をかけたという他者コストの評価の結果として生まれてくる感情であって、行政</p>	市長

順位	氏名（議席）	発言の要旨	答弁者
4	藤田 哲哉（8）	<p>の本来行うべき市民福祉の向上という考え方から「まちに感謝する人を増やす」という目標を行政として適切な戦略としてどう理解し、捉えているのか伺います。</p> <p>(3) 次に第4の「中核市への移行」について伺います。</p> <p>「中核市への移行を目指し、市民の皆様とオール富士市で議論を本格的に進めてまいります」とありますが、施策の大要の第7には、「中核市移行の検討につきましては、県との協議を重ね、広報ふじやウェブサイトなどへの掲載、講演会の開催により、検討状況を積極的に情報発信するとともに、市民説明会などを開催し、市民の皆様と議論を深めてまいります」とあります。</p> <p>それぞれの表現からすると、「中核市へ移行を目指し」市民の皆さんに判断を仰ぐのか、「中核市移行の検討」の判断を仰ぐのか判然としない状態にあります。どのように捉えるべきか伺います。</p> <p>3. 「施策の大要」について</p> <p>(1) 施策の大要の第2の『健やかに安心して暮らせるまち』から『富士市公立教育・保育施設再配置計画』に基づき、個別施設についての再配置検討を行い、統廃合や民間移管の対象となる施設の選定及びスケジュールの公表を行ってまいります」について伺います。</p> <p>この文言の後には、「保育士の確保や離職防止、教育と保育の質の維持向上を図る」という文章が続いております。一方で統廃合や民間移管、もう一方では離職防止や質の維持向上を訴えております。これらのバランスをどのように維持していくのか、また、地元との調整は、どのように行われるのか伺います。</p> <p>(2) 続いて、第3の『産業が交流するにぎわいのまち』から『第1回全国Bizサミット』を開催いたします」については、その目的と富士市にもたらされるメリットについて伺います。</p> <p>(3) 次に、第5の『魅力ある教育を実現するまち』から「富士山かぐや姫ミュージアムにおきましては、『静岡県富士山世界遺産センター』との連携を図りながら、魅力ある展示や各種講座を開催してまいります」については、具体的にはどのような連携を図るのか伺います。</p> <p>(4) 同じく第5から「オリンピック・パラリンピック開催に伴う事前合宿の誘致に向けて、早期に相手国を確定できるように取り組む」については、交渉に当たっていたハンガリーとの進捗状況について、また、その他に有力な候補はあるのか伺います。</p> <p>(5) 第7の『市民と創る新たなまち』の広域行政の推進から、富士山ネットワーク会議の「構成市町と連携し、移住・定住の促進をはじめ、観光・防災・広報などの分野で取組を進めてまいります」については、現状、移住促進に関して</p>	市長

順位	氏名（議席）	発言の要旨	答弁者
4	藤田 哲哉（8）	<p>は隣接市町との競争状態にあるのに対して、どのような連携を図っていくのか伺います。</p> <p>4. 「むすび」について</p> <p>「むすび」からは、本市のブランドメッセージである「いただきへの、はじまり 富士市」について伺います。</p> <p>「いただきへの、はじまり 富士市」は、ブランドメッセージとして選定された経過から、行政的なメッセージというよりは公共的なメッセージの趣が強いものであると考えられます。</p> <p>また、富士市ブランドプロジェクト事業の経緯から「富士山と、」運動のロゴマークとセットでブランドメッセージは展開されております。</p> <p>さらに、市長は、「自ら頂きに挑もうとする力、私は、この力こそが本市の都市活力であり、一人ひとりの力は小さくとも、それらが繋がっていけば、次代を切り拓く大きな力となって、富士市を飛躍させることができると確信しております」と綴っており、都市活力再生戦略のブランドメッセージであるかのような受けとめをしているように感じられます。</p> <p>しかしながら、このメッセージはシティプロモーションの1つの事業富士市ブランドメッセージ大作戦として展開されており、都市活力再生戦略を包括するようなものとはなっておりません。</p> <p>公共的なメッセージであることから、「自分の頂へと歩んでいこう」に対して行政的には受身となってしまいう傾向にあり、「自らの頂に挑もうとする力」を発揮していただくことに対しては弱さを感じられます。</p> <p>また、体系的にもブランドメッセージの本来の役割である基本計画全体を包括するような状況にもありませんが、今後の展開を伺います。</p>	市長

順位	氏名（議席）	発言の要旨	答弁者
5	井出 晴美（7）	<p>1. 「はじめに」について</p> <p>「選挙戦を通して私が肌で感じたことは、市民の皆様の評価が『1期目の市政運営は堅実であったものの、もの足りなさを感じる』というものであり、市民満足度を更に向上させるためには、プラスアルファの行政サービスが求められている」とある。</p> <p>(1) 市長が肌で感じたという、市民が感じた「もの足りなさ」について伺う。</p> <p>(2) 市民が満足する、プラスアルファの行政サービスとはどのようなものか具体的な内容について伺う。</p> <p>2. 「市政運営の基本姿勢」について</p> <p>(1) 第1より</p> <p>① 「市内外の観光スポットを効果的に結び、滞在型観光に繋がる取組を関係団体や周辺自治体と連携して進める」とあるが滞在型観光につながる取り組みについて具体策を伺う。</p> <p>② 「東京2020オリンピック・パラリンピックの事前合宿の誘致や文化プログラムについて取り組んでまいります」とあるが具体的な取り組み状況と内容について伺う。</p> <p>(2) 第2より</p> <p>① 「高齢者の皆様が住み慣れた地域でいつまでも暮らし続けることができるよう、医療、介護、予防、生活支援、住まいを提供できる地域包括ケアシステムを構築してまいります」とあるが、ここ数年にわたりケアシステム構築に向け取り組んでいると思うが、これまでの進捗状況と構築までの見通しについて伺う。</p> <p>② 「路線バスやコミュニティ交通をバランスよく配置した交通弱者に優しい公共交通ネットワークを構築してまいります」とあるが、具体的な構築の姿について伺う。</p> <p>3. 「施策の概要」について</p> <p>(1) 第1に『安全で暮らしやすいまち』をつくるための施策について</p> <p>「高齢者運転免許証返納支援事業を拡充し、新たに返納者に対して公共支援の回数券を交付」とあるが具体的内容について伺う。</p> <p>(2) 第2に『健やかに安心して暮らせるまち』をつくるための施策について</p> <p>① 「看護専門学校におきましては、教員の人材確保に向けた取組や、校内無線LAN環境の整備を行い、より質の高い学習環境を提供」とあるが、質の高い学習環境の提供について具体的内容を伺う。</p> <p>② 「市民協働事業提案制度を活用し、子育てサークルなどのネットワーク化と情報の共有化を図る子育て支援ネットワーク事業を実施」とあるが、どのような事業内容か伺う。</p>	市長

順位	氏名（議席）	発言の要旨	答弁者
5	井出 晴美（7）	<p>③ 『(仮称) 放課後児童クラブあり方懇話会』を設置し、今後のクラブ運営に関する基本方針を策定」とあるが、策定までの流れと基本方針の内容について伺う。</p> <p>(3) 第3に『産業が交流するにぎわいのまち』をつくるための施策について 『(仮称) 富士市CNF関連産業推進構想』を策定」とあるがどのようなメンバーで策定し、実用化につなげるのか具体的な内容について伺う。</p> <p>(4) 第5に『魅力ある教育を実現するまち』をつくるための施策について 「全ての学校で小中連携・一貫教育を段階的に推進」とあるが段階的な推進とはどのような内容か伺う。</p> <p>(5) 第6に『人にやさしい便利で快適なまち』をつくるための施策について 「若い世代の人口と市内中小企業等の人材の確保を図るため、奨学金の返還を中小企業等と連携して支援する制度を創設」とあるが具体的な制度の仕組みと支援内容について伺う。</p> <p>(6) 第7に『市民と創る新たなまち』を築くための施策について 「市民協働事業提案制度の運用を見直し、より多くの市民活動団体等の皆様から自由な発想力を活かしたご提案をいただけるよう取り組んでまいります」とあるが、どのように見直し、どのように取り組むのか伺う。</p>	市長